

2016年11月21日
セコム株式会社
東京国際空港ターミナル株式会社

羽田空港国際線旅客ターミナルに セコムのウェアラブルカメラを本格導入 試験導入での効果が認められ、本格導入に至る

セコム株式会社(本社:東京都渋谷区、社長:中山泰男)と、東京国際空港ターミナル株式会社(本社:東京都大田区、社長:土井勝二)は、羽田空港の巡回警備員にセコムのウェアラブルカメラを装着した実証実験を今年4月から行ってきましたが、効果が実証されたため、今般セコムのウェアラブルカメラを本格導入することになりました。

日本の観光立国の進展に呼応して国際化が進む中、特に日本の空の玄関口である羽田空港では、テロなどを防ぐため、より高度で機動性の高い警備が重要となっています。

本運用に伴い、以下の効果が期待できます。

- (1)巡回警備員がウェアラブルカメラを胸に装着して外周・ロビーの巡回を行います。これにより、監視カメラの死角エリアを補うため、セキュリティレベルの向上を図ることができます。
- (2)警備中に問題が発生した場合、撮影した映像がリアルタイムで防災センターのモニターに映し出されます。防災センターでは現地の警備員からの携帯電話や無線での言葉での報告とともに映像でその場の状況が即座に確認できるため、警備面のみならず、施設管理面においても、早期の事態把握とすばやい効率的な対応が可能となります。
- (3)ウェアラブルカメラで撮影した映像は強固なセキュリティを誇る、セコムのデータセンター「セキュアデータセンター」で安全に保存され、必要に応じ閲覧が可能となります。

高いレベルのセキュリティに基づく、空港の「安全・安心」は重要な交通インフラの基盤です。セコムと東京国際空港ターミナルは、これからも協力して、様々なセキュリティニーズに対応できるよう、技術とサービスの向上に努め、日本の玄関口である、羽田空港国際線旅客ターミナルの安全の向上に努めて参ります。



ウェアラブルカメラを右胸に装着したセコムの巡回警備員